



## にんげんだもの 相田みつを

米ホワイトハウスが、公式アカウントにその画像と「王様万歳！」との書き込みを掲載しているとおりで、トランプ大統領の就任以来の一連の言動は、イエスマンに囲まれた“裸の王様”のように映ります。そんな世界の耳目がトランプ氏関連に集まることが多い中、(NHK BS11)「アナザーストーリーズ 運命の分岐点」では、多くの日本人がほっこりするような「にんげんだもの 相田みつを」が放送されていました。

栃木県足利市出身の書家で詩人の相田みつを(1924~1991)が1984年に出版した最初の作品集『にんげんだもの』は、心に響く言葉と独特の書体で(子供でもわかるやさしい言葉で)多くの人々に愛され評判となり、一躍ベストセラーとなったものです。相田氏は書の最高峰の毎日書道展に1954年から7年連続入選するなど、技巧派の書家として知られていたのですが、「書」と「詩」の高次元での融合を目指すようになり、30歳で現在の独特の書体で、短く平易な自らの言葉を書く作風を確立したといわれています。作品に対しては妥協を許さず、例えば「逢」というたった一文字を書くために何百枚何千枚と紙を使用したり、印刷のわずかなズレや墨の色の微妙な違いから、印刷済みの色紙千枚ほどをボツにしたエピソードも残っているそうです。



ところで、私共の事務所でも、5年程前、相田みつを記念館の館長をされているご長男の相田一人氏をお招きしての講演会を開催して、「相田みつをワールド」に参加された皆様と堪能したことがありました。この度の放映された番組は、私共にとりましても当時と全く色あせない、感動と再発見の連続のひと時でした。

そもそも、私共と相田みつをとのつながり(係わりが始まったのは、氏のふるさとである足利市内で、全国の会計事務所を指導され、多くの会計士や税理士が研鑽に参集し、事務所職員の研修の場として訪れる、福田茂夫先生が主宰されている「ヒューマンネットワーク」とのご縁が始まりでした。また、福田先生のお住まいの近くに相田みつをのアトリエがあったこともあり、お付き合いのあった先生にお願いして、「経営計画書作成実践セミナー開催 200回記念」講演会の講師をお願いした次第でした。

(30年を超えるご指導をいただいておりますが、いつしか私共の事務所からの参加者の定番土産となった当地の銘菓の「古印最中」も、相田みつをの初期の作品が包装紙として長く使用されています。)

さて、今や「相田みつを名言&格言ランキング」も出回るほどに人気を誇る作品の数々ですが、私の“押し”の作品をご紹介します。

